

スポーツ・観光交流の促進

(文化・観光部)

1 静岡県の現状

○外国人延べ宿泊者数（観光庁「宿泊統計」、暦年）（単位：千人泊）

	H26	H27	H28	H29	H30	30-26	30-29
静岡県	786	1,740	1,570	1,502	1,813	1,027	311

○富士山静岡空港の国際線出入国者数の状況（法務省出入国者統計、暦年）（単位：人）

	H26	H27	H28	H29	H30	30-26	30-29
出入国者数	204,014	389,534	280,784	289,559	290,149	86,135	590
日本人	56,957	52,348	58,776	65,402	69,041	12,084	3,639
外国人	147,057	337,186	222,008	224,157	221,108	74,051	▲3,049

2 スポーツ交流の促進

世界的なスポーツイベント開催等を見据えたスポーツ交流の促進

(1) ラグビーワールドカップ2019

- ・ラグビーワールドカップ2019の開催を契機に静岡県を訪れる外国人を対象に、ファンゾーンやおもてなしエリアにおいて本県のPR等を実施

(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技の静岡県開催を機に、本県を訪れる外国人をおもてなしするとともに、本県のPRを実施
- ・9カ国1地域と14市19件の事前キャンプの覚書締結が実現していることから、「強化合宿の受入・市民交流」等の取組の促進及び誘致活動の継続

(3) サイクルスポーツによる国際交流

- ・「FUJI-ZONCOLANヒルクライムin小山町」へのサイクリスト受入（イタリア、台湾）

3 観光交流の促進

富士山静岡空港や本県が有する様々な資源を活用した観光交流の促進

(1) 静岡ツーリズムビューロー(TSJ)による戦略的な海外からの誘客

- ・TSJが行う、地域と連携した外国人向け商品開発から、海外市場への積極的な営業活動までの一貫した取組を支援
- ・大型イベントの観戦客を取り込み、滞在期間の長期化と旅行者の満足度の向上を図ることで、再来訪による持続的な誘客の拡大

(2) 富士山静岡空港を拠点とする海外との交流

・新たな運営体制への移行

富士山静岡空港は、平成31（2019）年4月から公共施設等運営権制度への移行により管理運営は運営権者に一本化。一方、航空ネットワークの拡充は交流拡大等に不可欠であるため、県、富士山静岡空港（株）（運営権者）、富士山静岡空港利用促進協議会の三者で連携して施策を実施

・定期便の維持・拡大【中国・韓国・台湾】

中部横断自動車道の開通を見据えた山梨県での需要開拓、海外駐在員事務所などと連携した旅行商品の造成支援や、増加する訪日外国人の獲得等による交流の拡大を促進

・新規路線の誘致【東・東南アジア】

乗継利用促進等による旅客需用の創出

訪日誘客支援空港のメリット等を活用し路線開設に意欲的な航空会社への働き掛けを実施